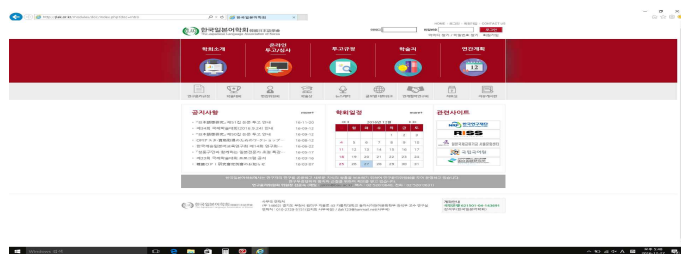


ニュースレター 韓国日本語學會〔2017-01〕



発行人：姜錫祐 / 編集人：南得鉉・金恩希・角ゆりか / 発行所：韓国日本語学会 / 発行日：2017. 1. 1.

会長挨拶	2
会員情報	3
その他の学会ニュース	4
協力研究会ニュース	6
学術大会結果報告	7
編集委員会経過報告	8
『日本語学研究』論文投稿案内	11
学会ホームページ案内	16

가톨릭대학교 동아시아언어문화학부 강석우교수연구실
우14662 경기도 부천시 원미구 지봉로43
Catholic大学校 東Asia言語文化学部 姜錫祐教授研究室
〒14662 京畿道 富川市 遠美区 芝峯路43
H.P：010・2729・5151(事務局長:金志姫)

E-mail：jlak123@hanmail.net Homepage：http://www.jlak.or.kr

学 会 長 挨 拶



韓国日本語学会 会員の皆様

新年明けましておめでとうございます。

多事多難であった丙申年(2016年) が去り、新しく希望に満ちた丁酉年(2017年) が始まりました。

会員皆様のおかげをもちまして、去る3月のカトリック大学、9月の東国大学における2回の学術大会、いずれも成功裏に終えることができました。この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

この1年間、日本語学専門学会としての位置を確かなものにするため、学術大会と学術誌の改善を図って参りました。まだ足りない部分はありますが、専門学会としての特色が少しずつ出てきたように思います。回を重ねるごとに充実していくポスター発表を始め、二人の指定討論者が主導する真摯でレベルの高い発表会場の雰囲気は今や韓国日本語学会だけの特色と言えるでしょう。また、本学会が誇る「日本語学研究」が韓国国内のみならず、世界的に認められる学会誌となるようにも努めていく所存であります。その一環として2017年3月発行本(51集)からは2年に1度、世界各地の日本語学研究者に韓国における日本語学各分野ごとの研究動向と展望を把握し発信していく予定です。

「日本語学専門学会」という学会の独自性を生かし、さらなる特色を出せるよう変化への試みは今年も変わらず続けていく所存です。

3月18日(土) 第35回国際学術大会が開かれる忠南大学でお会いできますことを心よりお待ちしております。

会員皆様にとって佳き年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

2017年1月1日

韓国日本語学会 第9代 会長 姜錫祐

会 員 情 報

○ 図書および教材(教科書) 出版情報

- ・李東哲・権宇・安勇花 編著『日本語言文化研究』(上/下) (中国延辺大学出版社,2016年5月出版)
- ・磯野英治・西郡仁朗 監修／共著『実践日本語コミュニケーション検定ブリッジ 問題集』(ウイネット出版,2017年1月出版)
- ・趙志剛 共著『実用日語聴力教程 (3) 教師用書』 (上海外語教育出版社,2016年5月出版)
- ・趙志剛 共著『実用日語聴力教程 (3) 学生用書』 (上海外語教育出版社,2016年5月出版)

○ 学位取得

- ・金到閏
学校: 別府大学 文学研究科
博士学位 取得日: 2016年3月22日 (文学博士)
論文タイトル: 日本語アソビ・アソビおよびそれぞれを要素とする複合語の意味・用法

○ 受賞

- ・趙志剛
(1)『沖縄方言漢字資料の研究』、黒龍江省社会科学優秀成果奨佳作奨、黒龍江省人民政府、2015年3月
(2)『中日文化交流史中对音資料的作用及意义』、黒龍江省外語学科優秀科研成果奨一等奖、2014年1月

○ 事務局

우14662 경기도 부천시 원미구 지봉로43
가톨릭대학교 동아시아언어문화학부 강석우교수연구실
〒14662 京畿道 富川市 遠美区 芝峯路43
Catholic大学校 東Asia言語文化学部 姜錫祐教授研究室
ホームページ: <http://www.jlak.or.kr> E-mail: jlak123@hanmail.net

- 審査料及び掲載料の納付先
국민은행(kookmin Bank) 621501-04-143691 강석우(한국일본어학회) 姜錫祐(韓国日本語学会)

・韓国日本語学会では海外団体会員(台湾日本語学会、日本国立国語研究所、国際交流基金日本語国際センター)に定期的に学術誌を発送しています。個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌発送をご希望される方は事務局までご連絡くださいますようお願い致します。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌(http://jlak.or.kr/modules/doc/index.php?doc=search&__M_ID=27)よりダウンロードできますのでご利用ください。

その他の学会ニュース

1. 韓国大学生日本語ディベート大会後援

本学会では日本語学研究成果活用と社会貢献を目的に、「韓国大学生日本語ディベート大会」を公式後援し、2016年第5回大会からソウル大会と全国大会の優勝チームに各々韓国日本語学会長賞を授与することになりました。表彰のため、去る2016年9月25日(日) 建国大学(ソウル) で開かれたソウル大会と2016年10月1日(土) 東義大学(プサン) で開かれた全国大会に姜錫祐会長が参加しました。



2. 日本文化セミナー主催

本学会と時事日本語学院、中央大学日本研究所の共同主催で2016年11月19日(土) 日本文化セミナーが開催されました。「独島、必ず知らなければならない3つの真実」というテーマで本学会の李吉鎔国際理事が講演しました。

3. 姉妹学会学術大会

(1) 台湾日本語文学会国際大会が2016年12月17日台湾 輔仁大学で「日本語文学研究と社会との連携」というテーマで開催されました。早矢仕智子副会長と趙宣映国際理事が発表者として参加しました。

2017年度台湾日本語文学会は12月16日開催される予定です(場所未定)。



(2) 中日対象言語学会第9回研究会が2017年8月19日～20日北方工業大学(北京市) で開催される予定です。

4. 学会ホームページリニューアル

学会のホームページ(www.jlak.or.kr)をリニューアルいたしました。ご利用の際にご不便な点などございましたら、自由掲示板にご投稿ください。ご投稿いただいたご意見は、改善に向けて努力してまいります。今後も有益な情報を皆様にご提供できるよう、最善を尽くすことをお約束いたします。一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



5. 2017年3月春季学術大会

2017年3月18日(土) 忠南大学で春季学術大会が開催される予定です。奮ってご参加ください。

協力研究会ニュース

㊤ 韓国OPI研究会 ㊤

2016年度より韓国日本語学会と連携協力協定を結びました韓国OPI研究会です。

韓国OPI研究会は、韓国人日本語学習者のための日本語口頭表現能力評価法の研究、及び開発を目的とし、インタビュー技術の向上、研究活動の活性化を目指して1999年1月正式な研究会として発足しました。

研究会では、年に4回開かれる研究会で、インタビューテストのテープ判定についての訓練やOPIに関する情報の伝達、研究活動報告などを行っています。また、2003年と2009年度にはソウルで「OPI国際シンポジウム」も開催いたしました。また、ACTFL(在米外国語教育協会)による「ACTFL-OPI試験官資格取得ワークショップ」を直接に認可を受け2年に1回自主開催し、活動の一環として現在まで13回のワークショップを行いました。当研究会からは2016年11月現在、ノンネイティブデスター2名を含む約50名のデスターを輩出しています。

2016年度より、韓国国内でも「コンピューター版OPI」である「OPIc」の日本語試験が開始されました。韓国国内では口頭運用能力の評価は教育面だけでなく多方面にわたって必要とされています。今後も韓国での日本語教育の活性化と発展のため、力を尽くしていくつもりです。

(研究会ホームページ : <http://opik.da-te.jp/>)



学術大会結果報告

【第34回 国際学術大会 結果報告】

- 日時：2016年 9月 24日(土)
- 場所：東国大学 文化館
- 学術大会結果報告
 - 快晴のもと、会員の皆様のおかげを持ちまして盛況の内に終了しました。
 - 国際学術大会の名にふさわしく、韓国国内の研究者だけでなく、日本、中国、台湾から多くの方々ご参加くださいました。
- ご後援を賜りました東国大学日本研究所に感謝いたします。



韓国日本語學會
第34回 国際學術發表大會論文集
Proceedings of the 34th General Meeting of the JIAK
September 24, 2016

한국의 일본어교육 어떻게 가야 할 것인가?
-韓国の日本語教育はどうあるべきか-
2016年 9月 24日(土)
東国大学 文化館

主催：韓国日本語学会
主幹：韓国日本語学会、東国大学日本学研究所
後援：東国大学日本学研究所、日本国際交流基金ソウル文化センター、(株)時事日本語社

韓国日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

編集委員会経過報告

2016年度 第49集 編集委員会】

・第1次 編集委員会

○日時：2016年 7月 11日
○場所：松島 イルビーノ会議室
○案件：

- 1) 49集 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第49集 投稿論文 審査者選定
- 3) 第49集 審査日程議論
- 4) 第49集 投稿論文審査依頼

・第2次 編集委員会

○日時：2016年 8月 10日
○場所：サイバー編集委員会
○案件：

- 1) 第49集 審査進行状況確認

・第3次 編集委員会

○日時：2016年 8月 26日
○場所：時事日本語学院別館202号
○案件：

- 1) 第49集 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第49集 投稿論文審査結果審議
- 3) 第49集 掲載予定論文確定
- 4) 第49集 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第4次 編集委員会

○日時：2016年 9月 1日
○場所：サイバー編集委員会
○案件：

- 1) 第49集 投稿者修正内容確認

・第5次 編集委員会

○日時：2016年 9月 7日
○場所：図書出版チェックサラン
○案件：

- 1) 第49集 1次発行作業経過確認
- 2) 第49集 1次 発行作業及び校正作業

・第6次 編集委員会

○日時：2016年 9月 12日
○場所：図書出版チェックサラン

案件:

- 1) 49集 最終校正作業
- 2) 第49集 印刷依頼
- 3) 編集委員会 今後の日程点検

・『日本語学研究』第49集 発行(2016. 9. 20.)

【2016年度 第50集 編集委員会】

・第1次 編集委員会

○日時: 2016年 10月 7日

○場所: 時事日本語学院本館406号

○案件:

- 1) 第50集 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第50集 投稿論文 審査者選定
- 3) 第50集 審査日程議論
- 4) 第50集 投稿論文審査依頼

・第2次 編集委員会

○日時: 2016年 11月 4日

○場所: サイバー編集委員会

○案件:

- 1) 第50集 審査進行状況確認

・第3次 編集委員会

○日時: 2016年 11月 13日

○場所: 時事日本語学院本館303号

○案件:

- 1) 第50集 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第50集 投稿論文審査結果審議
- 3) 第50集 掲載予定論文確定
- 4) 第50集 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第4次 編集委員会

○日時: 2016年 11月 25日

○場所: サイバー編集委員会

○案件:

- 1) 第50集 投稿者修正内容確認

・第5次 編集委員会

○日時: 2016年 12月 12日

○場所: 図書出版チェックサラン

○案件:

- 1) 第50集 1次発行作業経過確認
- 2) 第50集 1次 発行作業及び校正作業

・第6次 編集委員会

○日時: 2016年 12月 16日

○場所: 図書出版チェックサラン

○案件:

- 1) 第50集 最終校正作業
- 2) 第50集 印刷依頼
- 3) 編集委員会 今後の日程点検

・『日本語学研究』第50集 発行(2016. 12. 20.)



『日本語学研究』投稿規定

■ 投稿規定

第1条（学会誌発刊日程）

		論文投稿締切日
第1回発刊	3月20日	前年度12月末日
第2回発刊	6月20日	3月末日
第3回発刊	9月20日	6月末日
第4回発刊	12月20日	9月末日

は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条（投稿資格）

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②会員との共同投稿者及び招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条（投稿対象）

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条（論文内容）

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならない。本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条（掲載限度）

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。

第6条（分量）

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条（投稿論文受付）

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の監査が記入の有無を確認する。

第8条（審査）

投稿された論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員会における審査担当編集委員（査読委員）1人以上が必ず含まなければならない。

第9条（審査料及び掲載料）

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿の締切日まで、掲載料は掲載用の原稿提出締切日までに入金する。

第10条（校正）

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条（別刷本）

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。

第12条（著作権）

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、著作権は本学会に帰属する。

第13条（その他）

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

>

・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。

『日本語学研究』投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

は韓国語 日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿は☐を使用して作成することを原則とし、☐で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、☐を使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

- ① 論文題目
- ② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。
- ③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)
- ④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。
(例 : 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育、(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学 (Other Japanese Studies))
- ⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。
- ⑥ 本文
- ⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。
- ⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。
- ⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一の著者の文献である場合、著者名にする。

例: 高橋太郎(1969)『すがたともくろみ』『日本語動詞のアスペクト』表書房 pp.1-5
김정수(2003)『한일어 조사대조』『일본어학연구』제6집 한국일본어학회 pp.1-5
Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. *Language in Society*, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に <図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

■ 審査料及び、掲載料入金要領

【要旨発刊費】

- 入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)
- 金額: 10,000ウォン

【審査料】

- 入金期限:論文投稿締切日
- 金額: 60,000ウォン

【掲載料】

- 入金期限:掲載用原稿の提出締切日
- 金額:
学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)
無発表論文 : 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)
※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

【入金口座】

- 口座番号: 国民銀行 621501-04-143691 (姜錫祐)
- ※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

【審査及び掲載用論文提出先】

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

- 種類: 使用者定義, 幅170, 縦240
- 余白: 上20, ヘッダー10, 下10, フッター0, 左15, 右15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

- 論文題目 ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
- 副題目 ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
- 著者名 ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
- 要旨 ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
- 論文分野 ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
- キーワード ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160

し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* ホームページの論文作成例示を参考にすること

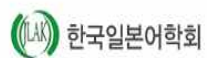
学会ホームページ案内

韓国日本語学会ホームページでは以下のような多様なサービスを提供しています。会員の方は無料オンライン会員に登録後ご利用くださいますようお願い致します。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨文ダウンロード
5. その他本学会関連情報

学会 ホームページ URL

<http://www.jlak.or.kr>



■ 학회사무국	■ 学会事務局
주소 : 우14662 경기도 부천시 원미구 지봉로43 가톨릭대학교 동아시아언어문화학부 강석우교수연구실 H.P : 010 · 2729 · 5151(사무국장:김지희)	住所 : 〒14662 京畿道 富川市 遠美区 芝峯路43 Catholic大学校 東Asia言語文化学部 姜錫祐教授研究室 携帯 : 010 · 2729 · 5151(事務局長:金志姫)
Homepage : http://www.jlak.or.kr	E-mail : jlak123@hanmail.net

ニュースレターでは会員皆様の新規・変更等の情報をお知らせしています。
 掲載ご希望事項がございましたら学会の公式メールアドレス(jlak123@hanmail.net)までお知らせください。